

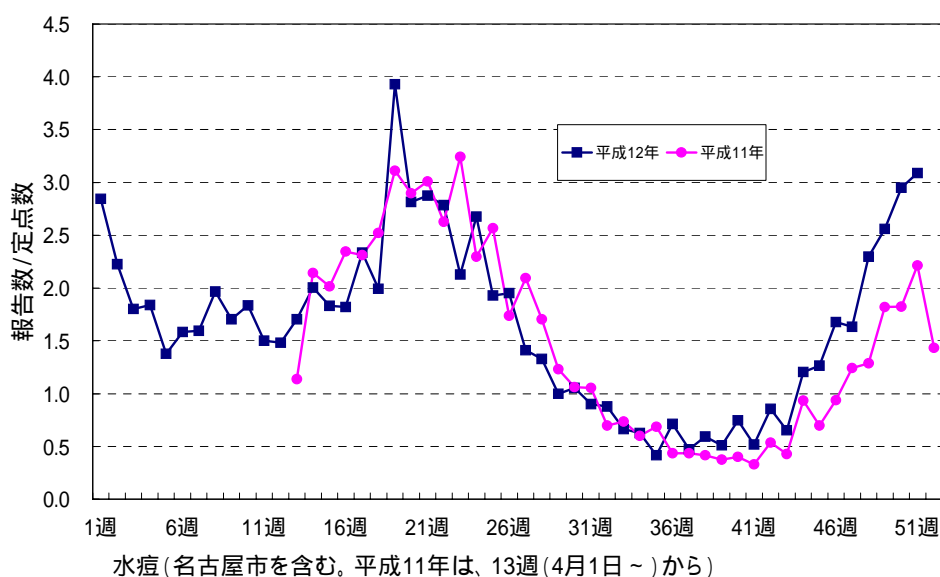
愛知県感染症情報

平成 12 年第 51 週 (12 月第 3 週)

(コメント)

水痘、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎はいずれも流行中です。手足口病の流行は過ぎたようです。

インフルエンザは、散発しています。インフルエンザ及び水痘についての詳しい説明については、愛知県衛生研究所のホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>) をご覧ください。



(先生方からのコメント)

● 尾張西部地区

- ・ 感染性胃腸炎多い。

手足口病まだあります。

ムンプスも小流行持続中

(一宮市 あさのこどもクリニック)

- ・ 麻疹 - 予防接種歴なし

(一宮市 後藤小児科医院)

- ・ 病原性大腸菌感染者 5 名 (O-1 5 歳男及び 6 歳女、O-112ac 9 歳女、O-136 2 歳女、O-166 38 歳女)

カンピロバクター保有者 2 歳女

マイコプラズマ肺炎 2 歳男

流行性耳下腺炎 4 歳 ~ 9 歳に 5 名、小流行の形です。

(尾西市 城後小児科)

- ・ 急性胃腸炎が多い。インフルエンザ様疾患あるも Flua (-) のものばかりです。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ 感染性胃腸炎、水痘が相変わらず流行しています。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ 感染性腸炎多発、インフルエンザは少ない。
(新川町 三輪医院)
- 尾張東部地区
 - ・ 相変わらずウイルス性胃腸炎 (ロタ陽性は少ない) が多く、マイコプラズマ肺炎も 6 名 (3 歳女 2 名、3 歳男、6 歳男 2 名、4 歳女) と多くみられます。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
 - ・ 水痘小流行あり。
1 歳女児サルモネラ腸炎 (O-4) 入院加療。
小児、成人ともに嘔吐症状にて来院される症例が大変目立ちました。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
 - ・ インフルエンザ A (Flua) 陽性例 2 例ありました。
(尾張旭市 旭労災病院)
 - ・ 今週もまだムンプス、手足口病がみられます。高熱の続く胃腸カゼが流行しています。
(春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ 異型肺炎例ありました。胃腸かぜやや減少。
(春日井市 朝宮こどもクリニック)
 - ・ 感冒性嘔吐症多し。インフルエンザまだない。
(小牧市 小牧市民病院)
 - ・ 感冒性胃腸炎、気管支肺炎流行中です。肺炎は年長者はマイコプラズマが主体ですが、幼少児例では RS (Respiratory Syncytial ウイルス)、マイコプラズマ、インフルエンザなどいずれも陰性で病因がよくわかりません。
(小牧市 志水こどもクリニック)
 - ・ RSV (+) の細気管支炎の乳児が多い。
感染性胃腸炎が急増
(東海市 東海市民病院)
- 西三河地区
 - ・ 手足口病から髄膜炎 (3 歳男)
(豊田市 やふそ小児科)

- ・ 病原性大腸菌 O-80 1歳男、O-114 4歳男、O-164 2歳男
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ マイコプラズマ肺炎 (×5120) 5歳
カンピロバクター 7歳男 (他院で虫垂炎?と診断)
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 O-1 (+) VT1・2 (-) 2名 (10歳男、8ヶ月男)
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 嘔吐下痢症が流行中。
(西尾市 やすい小児科)
- 東三河地区
 - ・ 高熱 (39 ~ 40) をきたし関節痛を訴える患者さんが増えてきました
が、全て、FluA は陰性でした。
(豊橋市 あずまだこどもクリニック)
 - ・ 感染性胃腸炎が流行しています。
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
 - ・ ワクチン接種による水痘の発症例あり (姉妹にて3人)
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者1名。

- ・ 安城保健所から報告の38歳男。12/12発病、12/13初診、12/17診
定。菌型は、O-157 VT (+)
- ・ 津島保健所から報告の65歳男。12/17発病、12/18初診、12/22診
定。菌型は、O-157 VT1・2 (+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

ツツガムシ病患者1名

49週 (12月4日~12月10日) の4類感染症の全国状況

水痘の定点当たり報告数が例年に比べかなり多くなっており、山形県で定点当たり報告数6.7、新潟県で4.7、福井県で4.5、青森県で4.6、長野県で4.2の報告がある。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、例年の同時期に比べやや多くなっている。麻疹は例年の同時期と比べ定点当たり報告数がかなり多くなっており、高知県、奈良県、北海道などで患者報告数が多くなっている。感染性胃腸炎は前週から今週にかけて患者数が

急増し、1999、1995年に次ぐ定点当たり報告数となっており、とくに宮城県、山形県、山口県、福岡県では定点当たり報告数が20を超えている。インフルエンザの活動性はまだ低く、全国平均で定点当たり報告数0.23となっているが、埼玉県で他の都道府県より定点当たり報告数が多くなっている。咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナなど、通常夏季に流行する疾患の定点当たり報告数が例年に比べて多く、とくに咽頭結膜熱は定点当たり患者報告数が第43週以降増加傾向にあり、シーズンオフの流行曲線としては過去10年間で最大となっている。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり4.0と報告が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報)

平成12年12月26日

愛知県感染症情報

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

芭蕉の句に蓑を着て草鞋をはいているうちに今年も暮れてしまったというのがあったと思いますが、忙しがっていますうちに師走も終わろうとしています。いつも貴重な情報を有難うございます。12月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：インフルエンザの発生はまだ報告をいただいていませんが、市内全体にウイルス性の胃腸炎・嘔吐下痢症が発生しています。乳幼児を中心としたロタウイルス陽性の下痢症もみられますが、主体となっているのはロタウイルス陰性例で、年長児から成人（時に家族内発生あり、数日）で嘔吐のつよい例と幼児を中心とした嘔吐下痢、特に下痢がやや長引く例があるようです。軽症が多いようですが脱水で入院の必要な例もあります（第一日赤有吉先生、名鉄病院宮津先生、国立病院伊藤先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。地区により、まだ手足口病の発生が続いていて髄膜炎の合併例も目立っています。衛生研究所のウイルス検査の結果は前回の報告同様エンテロウイルス71型が分離されていますがその後の解析では特に変異しているという所見は得られていません。一方、ムンプスの散発も続いていて無菌性髄膜炎の合併が目立っています（第一日赤有吉先生、国立・伊藤先生、城北・渡辺先生）。RSウイルス陽性の細気管支炎・気管支炎・肺炎、ウイルス性肺炎やマイコプラズマ感染症が各地区で目立っています（第一日赤有吉先生、名鉄・宮津先生、国立・伊藤先生、城北・渡辺先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。その他火傷様皮膚症候群、麻疹とEBウイルス感染症、伝染性紅斑様症候群（第一日赤有吉先生）、川崎病2例（国立・伊藤先生）、5歳の帯状疱疹（千種区今枝先生）、ペニシリン耐性肺炎菌敗血症（三菱・岩間先生）、b型インフルエンザ菌髄膜炎兄妹例（中京・柴田先生）、重症扁桃炎の入院が多い（労災・山田先生）などのお手紙をいただきました。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは嘔吐を主体とする感染性胃腸炎が多く、最近ロタウイルス感染症増加、津島市民病院長田先生からはアデノ腸炎、ムンプス、半田市民病院小児科からは麻疹の入院数例あり、インフルエンザ陰性の高熱の感冒で要入院例目立つとのお手紙でした。

3. 三河地区：知立市近藤先生からは溶連菌感染症が続きムンプスが散発、家族内感染が目立つロタウイルス陰性の感冒性嘔吐下痢症目立つ。刈谷市田和先生からは嘔吐下痢症が目立ち溶連菌感染症散発、2-3日の発熱や咳の多い感冒が少々、碧南市永井先生からは幼児・学童の嘔吐症、ムンプスが目立つ、豊橋市宮澤先生からはマイコプラズマ肺炎の家族例、感冒性胃腸炎が目立つとのお手紙でした。

4. インフルエンザの流行期です。先生の地区のインフルの年齢、主症状（最高体温と持続、二峰性）、ワクチン接種状況など是非お知らせください。有難うございました。

2000年11月17日号(75巻46号)

エボラ出血熱続報：ウガンダ。11月12日時点でグル地区を中心に329例(死亡104例)。地域集積性が著明で他地区への流行波及はなく全体として発生は減少中。

コレラ：南アフリカ。11月9日時点で4583例(死亡33例)。患者数減少中。

リフトバレ-熱：サウジアラビア。00年8-10月。10月26日までに453例の要入院例発生、140例が検査室診断で確定。罹患平均年齢47歳(分布1-95歳)、死亡率19%、患者の76%が家畜と接触あり(64%が死亡した羊、山羊と接触)。

ポリオ根絶計画：東地中海地区。99年1月-00年9月。サ-ベイランス網の充実につれて所属23カ国・地区の19カ国・地区で野生株ポリオの発生は消失した。本報告は最近の状況のまとめである。定期ワクチン接種：定期ポリオ生ワク3回接種完了児は、14カ国で90%以上であるがアフガニスタン32%、パキスタン80%、ソマリア18%、ス-ダン77%などで、当地区の半数以上の地域が接種率80%以下である。全国一斉接種日：ポリオ野生株常在中の諸国(アフガニスタン、エジプト、イラク、パキスタン、ソマリア、ス-ダン)で実施。戸別訪問による接種で接種率増加。発生地区を中心に絨毯爆撃的地域単位の補充接種実施。急性弛緩性麻痺サ-ベイランス：全域で臨床的に診断された例の報告網が整備され、00年には適切なウイルス検査検体が13カ国で収集されるようになった。ウイルス検査：WHOの指導・助成のもとに圏内の12研究室がウイルス学的検査が可能となった。ポリオ発生状況：00年9月時点でポリオ確定例数は50%減少したがいまだにパキスタン、アフガニスタン、イラン、イラク、エジプト、ソマリア、ス-ダンで野生株ポリオが発生している。

インフルエンザ：本年10月。チェコ(B型)。

11月10日-16日届出疾患：なし。

2000年11月24日号(75巻47号)

エボラ出血熱続報：ウガンダ。11月17日時点で329例(死亡107例)。発生は減少中で週報も週2回とした。

異型クロイツフェルドジャコブ病(vCJD、通称狂牛病)：00年9月末までに英国で84例、アイルランドで1例、フランスで3例がvCFJに罹患。本報は(現在までにそのような症例はないが)可能性として血液製剤・輸血による感染に対してどう対処するかを中心にまとめられている(例えば英国の血液製剤の移動の制限とかカナダや米合衆国で考えられているように献血者の発生地滞在歴のチェックなど)。

世界のエイズ(1)：2000年。2000年末時点で感染者・患者数は3610万、2000年年間感染・患者数は530万(小児60万)と推定される。本報告は2000年11月における各国届出状況(米合衆国、ブラジル、タイ、アフリカ諸国が相変わらず多い)と各地区の状況(地域により増加数、感染様式の違いがある)のまとめである。

インフルエンザ：11月。フランス；AH3N2。香港；B。英国；AH1N1。ポルトガル；B。

11月17日-23日届出：コレラ。ブルンジ、コンゴ、ギニア、ケニア、リベリア、マラウイ、ナイジェリア、南アフリカ、ウガンダ、タンザニア、マダガスカル。